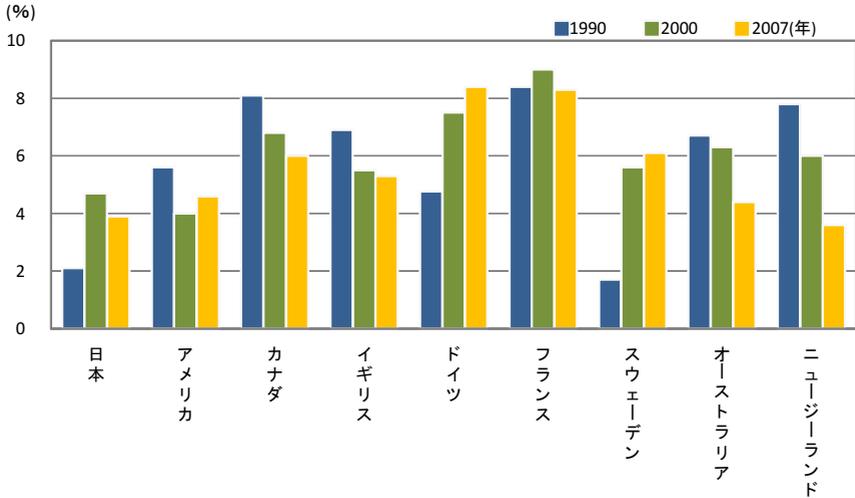


## 4-1 ILO定義失業率



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第4-1表 標準化失業率」(p.142)を参照。

各国で公表されている失業率は、国によって定義が異なるため、そのままでは国際比較ができない。そこでILOでは、ILO指針による失業率を定義している。この定義に基づいて各国の失業率が比較可能となるように試算しているのが、OECDによる「標準化失業率」である。

日本の失業率は2003年まで上昇傾向にあったが、2004年から2007年にかけて徐々に低下し、2007年は3.9%と欧米先進諸国に比して低水準にある。上のグラフに挙げた国をみると、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、イギリスで1990年から2007年にかけて失業率の大幅な低下がみられた。一方、ドイツ、フランス、スウェーデンでは1990年から2005年に失業率の上昇傾向が続いたが、ここ数年は低下している。

なお、2008年秋以降、世界的な経済危機によって、多くの先進諸国の失業率は上昇している。